

緑の風

JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2025年8月12日 No.15



日航機墜落事故から40年

1985年8月12日、帰省する方々などを乗せた日本航空123便が群馬県の「御巣鷹の尾根」に墜落、520名もの方々が亡くなりました。今年で事故から40年です。心からご冥福をお祈りいたします。

公共交通を担う労働者として「安全第一」が最優先ですが、JR東日本グループでは「融合と連携」による兼務や多能化が進み、疲弊した状態で業務せざるを得ない現実があります。要員不足による休日出勤や長時間労働も常態化し、睡眠不足のまま業務を強いられることも少なくありません。

また、一部の管理者や指導担当など、業務量が特に多い社員のエラーも目立っています。中には「次の業務に影響が出るのを防ぎたい」との心理から安全確認や運転再開の手順が守られなかった事例もあります。希望に反した異動も相まって、鉄道員としての専門性やプロ意識の低下が顕著です。

「安全」の文字が薄れてしまったグループ経営ビジョン「勇翔2034」のもと、来年度には組織再編と人事・賃金制度の見直しによって、更なる兼務と多能化、社員間の競争意識の醸成が危惧されます。命と安全を最優先する企業風土をつくるため、おかしいことにはおかしいと声を上げましょう！

**いまの働き方で、「安全」を守り続けられますか？
JR東労組に結集し、命を守るために声を上げよう！**